

栄養の吸収力の低下などが起こる。腸の蠕動運動の低下は、便秘の原因にもなる。

- 5 × 老化に伴い筋肉量が減少し、それによって筋力や持久力が低下していく。

**問題3**      正解 3      ●——健康の捉え方      重要度 ★★

●健康に関する様々な概念について整理しておくこと。また、健康日本21（第二次）についても押さえておく。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 4

- 1 × 世界保健機関（WHO）の健康の定義は、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義されている。
- 2 × プライマリ・ヘルスケアとは、全ての人にとって健康を基本的な人権として認め、その達成の過程において、住民の主体的な参加や自己決定権を保障する理念で、1978年にWHOとユニセフにより開催された国際会議で採択されたアルマ・アタ宣言で提唱された。オタワ憲章で提唱されたのは、ヘルスプロモーションである。
- 3 ○ 記述のとおりである。「健康づくりのための身体活動基準2013」では、身体活動の増加でリスクを低減できるものとして、糖尿病、循環器疾患等に加え、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）、認知症が取り上げられている。
- 4 × 健康日本21（第二次）では、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の予防と重症化の予防、③社会生活を営むために必要な機能の維持・向上、④健康を支え、守るための環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動、運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣病及び社会環境の改善が挙げられている。健康寿命の延伸とは、単に平均寿命を延伸することではなく、介護を受けたり寝たきりになったりせずに自立して生活できる期間を伸ばすことをいう。
- 5 × 特定健康診査の対象者は40歳以上75歳未満の医療保険加入者である。

**問題4**      正解 2      ●——生活習慣病      重要度 ★★

●生活習慣病は、食生活の乱れ、過剰な飲酒・喫煙、運動不足などが積み重なって引き起こされる様々な疾患の総称である。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 5

- 1 × 脳内出血は、脳の細い血管が圧力を受けて破れ、脳内に血液が流れ出すことで発症するもので、頭痛などの症状が活動中に突然起こるのが特徴である。
- 2 ○ くも膜下出血は、くも膜と軟膜の間の血管が破れ、出血することで発症するも

ので、激しい頭痛が特徴的である。症状の進行とともに、徐々に意識障害や嘔吐といった症状がみられるようになる。

- 3 × 糖尿病による高血糖では脂肪の分解が進み、ケトン体という酸性物質がたまることで、ケトアシドーシスという状態を引き起こす。重症になると意識障害や呼吸困難、嘔吐などの症状が出現する。
- 4 × 胃がんの原因となるのは、塩分のとりすぎや、ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）の感染などである。
- 5 × 厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計（確定数）の概況」によると、がんによる部位別死者数は多い順に、第1位が肺、第2位が大腸、第3位が胃となっている。なお、大腸については結腸と直腸による死者数を合計したものである。

**問題5**      正解 3      ●——高次脳機能障害の特性      重要度 ★★★

●高次脳機能障害は、事故や病気などで脳が損傷され、話す・考える・覚える・集中する・感情をコントロールするなどが難しくなり、生活に支障をきたす状態である。外からはみえないため理解されにくく、支援が必要な障害である。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 5

- 1 × 本人自身も障害に気づきにくい。
- 2 × 計画を立てて物事を実行することができないなどは、遂行機能障害である。
- 3 ○ 集中できない、気がつかないなどは、注意障害の例である。
- 4 × 新しいことを覚えることができないなどは、記憶障害である。失行とは、衣服の着脱ができないなど、思うような動作ができないことをいう。
- 5 × すぐ怒る、落ち込む、不適切な場面で笑いだすなどは、社会的行動障害である。

**問題6**      正解 4      ●——肢体不自由      重要度 ★★

●肢体不自由には、先天的または後天的な原因がある。前者では脳性麻痺や二分脊椎などが多く、後者では交通事故による脊髄損傷などが多い。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 5

- 1 × 脳性麻痺は、胎児期から新生児期の間は何らかの原因で受けた脳損傷の結果、姿勢・運動面に異常をきたしたものをいう。
- 2 × 記述は、「痙直型」である。「アテトーゼ型」は、ゆっくりねじるような、あるいはふらふらする不随意運動を示すタイプである。
- 3 × 筋ジストロフィーのうち最も多い「デュシェンヌ型」は、症状が進んで15歳頃には全介助となり、さらには人工呼吸器が必要になる。15歳を過ぎても歩行